

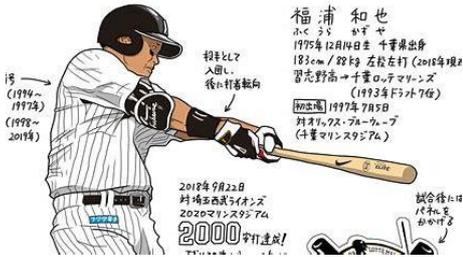


2千本安打達成記念「始球式」にあたり

8区6班 和泉 鐵太郎

千葉ロッテマリーンズ 福浦 和也選手 様
習志野高校野球部同期の皆様

2千本安打達成を記念して、2019年5月11日（土）思い出深い秋津球場にてイースタンリーグのマリーンズ対ヤクルト戦で「始球式」と聞きました。



習志野高校野球部同期15名の皆様も守備についての始球式は、日本プロ野球史上初と思います。

福浦和也選手は、伝説のイチロー選手が米国に渡った年にパリーグ「首位打者」のタイトルに輝きました。

高校時代は守備が上手ではなかった福浦選手がプロの世界で「ゴールデングラブ賞」を何度も受賞しました。

2018年には一流打者として大勲章「2千本安打」

を達成されました。プロ野球人として見事な締め括りで素晴らしい快挙でした。腰痛を抱え大変な苦勞もあった中で、努力を積み重ね達成されました。本当におめでとうございます。これからは指導者として、日本のプロ野球界そしてMLBを目指す後輩たちのために益々ご活躍されますようご期待申し上げます。

北海道遠征時には、札幌ドームで北海道の少年野球チームの子どもたちを温かく教えていただきました。その子どもたちが今は指導者となり、全国大会で優勝するまでに成長しました。心から感謝申し上げます。

私の長男の律亮が5月の連休を利用し実家に家族で参りました。始球式のお話を聴き、試合終了後に同期の皆様との会合も予定と聞きました。習志野高校野球部3年生最後のグラウンドで唄わせていただきました思い出の歌です。相撲甚句「習志野高校野球部に寄せて」を収録しましたので、会合の最後に拝聴していただければ幸いです。

和泉 鐵太郎 (和泉 ^{のりあき} 律亮・父)

相撲甚句 『習志野高校野球部に寄せて』

ハア一坂東太郎利根川を 東に眺めて陽が昇り 西に靈峰富士を見て 南に広がる太平洋 ここは関東下総に 毅然と聳えるその雄姿 天下にその名を知られたる 習志野高校野球部よ 秋津の杜から船出して 強豪チームと四つに組み 勝利に沸いた天台や 栄光輝く千葉マリン 歓声上がるスタンドの 一投一打に声からし 友や兄等や父母の 熱い声援背に受けて 打って走って又投げて いよいよ舞台は甲子園 全国四千有余校 その頂点に二度も立ち 汗と涙の結晶が 深紅に輝く優勝旗 伝統誇る習志野で 明日に続く 若者よ 男のロマンと夢を持って 更なるチャレンジ怠るな 鍛えぬいた魂は 君らの宝になるだろう 我が青春に悔いもなく 友と競った思い出の この学び舎よグラウンドよ 応援下さる皆様に 心を込めて ヨーオホホーイ アアーア 有難う アードスコイ ドスコイ



指導 大関 北葉山 (宮城野部屋) (当時大関)
詩・唄 和泉 鐵太郎 (北海道江別市在住)



見晴台盆唄2022(北海盆唄)



[クリックすると曲を再生します。](#)

- エンヤ コリヤヤノ ドッコイジャンジャン コラヤト ハアーアアア
1. 江別名物 数々コリヤ有れどヨー 赤いナー 赤いレンガにコリヤ
ヤレサナー はるゆたかヨー
エンヤコリヤヤト ドッコイジャンジャン コラヤト
 2. 江別見晴 眺めがコリヤ良くてヨー 西にナー
西に札幌コリヤ ヤレサナー 街見えるヨー
 3. 豊太鼓の 響きにコリヤ合わせヨー 踊れヨー 踊る輪と輪にコリヤ
ヤレサナー 花咲いたヨー
 4. 江別見晴 世界にコリヤ先がけ 出来たヨー 出来た機体がコリヤ
ヤレサナー 空飛んだヨー
 5. 老いも若きも 品良くコリヤ踊れヨー 孫のナー 孫の舞う手はコリヤ
ヤレサナー 祖母譲りヨー
 6. 江別見晴 美人がコリヤ多くてヨー 赤いナー 赤い唇コリヤ
ヤレサナー ななかまどヨー
 7. 浴衣帯締め 出店をコリヤ回りヨー 今日ハナー 年に一度のコリヤ
ヤレサナー 夏まつりヨー
 8. 川の流れと 変わらぬコリヤものはヨー 母のナー 母の手料理コリヤ
ヤレサナー 故郷(さと)の味ヨー

指導 日本大学民謡研究会 顧問 初代 浜田喜一
詩・唄 和泉鐵太郎(見晴台在住)

相撲甚句「北の大地」(江別 2018)

ハアーアアエー 北の大地を甚句に読めばよ アードスコイ ドスコイ
ハアー夜景が見事な函館は 異国文化の風が吹き トラピスチヌに鐘が鳴り
桜の名所は五稜郭 初夏の六月札幌は よさこいソーラン神輿
渡御 秋は紅葉の定山溪 世界遺産の知床は 漁師とヒグマが
共存し 緑のマリモの阿寒湖や 優美な丹頂鶴居村 サミット
開催洞爺湖を 見守る蝦夷富士羊蹄山

赤いレンガの江別には 石狩川が悠々と 流れて夕日の日本
海 ノーベル賞を受賞した 鈴木博士も住む街は 木製飛行機
空を飛び 緑の野幌原始林

屯田兵が入植し 厳しい寒さに耐えながら 艱難辛苦を乗り
越えて 先人達のご努力で 出来た大地が北海道 次代を担う

若者よ 男のロマンと夢を持ち 世界に目を向け羽ばたいて 更なる努力を怠るな
ご指導仰いだ皆様と ご先祖様に感謝して 心を込めて ヨーオホホーイ

アアーアアー ありがとうヨー アーア ドスコイ ドスコイ

指導 大関 北葉山(宮城野部屋)(当時大関)
詩・唄 和泉 鐵太郎(江別市在住)



[クリックすると曲を再生します。](#)

“対雁学校…①生い立ち”

対雁小学校と言えば、古くから地元であり「よく知っているよ、今更…」と思う方も多いと思います。私も息子三人対雁小学校でお世話になりましたが、意外と学校の生い立ちや経緯については知らないという方が多いのではないのでしょうか。

今年 127 回目の卒業式を終えた対雁小学校ですが、その歴史を簡単に振り返りながら、対（對）雁小学校と見晴台の関わりを整理していきたいと思います。

まず、以下の年表をご覧ください。

1875年 (明治8年)	5月 ロシアと樺太千島交換条約締結 9月 サハリンから841名宗谷に移住
1876年	6月 樺太アイヌを宗谷から対雁に移住
1878年	1月12日開拓使学務局直轄対雁教育所開設
1880年	6月新校舎完成対雁学校となる 生徒70名
1886年 ～1887年	コレラ・天然痘流行で、 樺太アイヌ死者約300名
1890年	6月 江別村立対雁小学校となる
1906年	樺太アイヌほとんど樺太へ帰郷
1911年 (明治44年)	対雁学校卒業生の山辺安之助氏、白瀬隊長の南極探検隊に参加、無事帰還
1919年 (大正8年)	3月 校旗、旧校歌制定 (作詞:26代校長 下田孝一)
1941年	4月 国民学校令により、対雁国民学校となる
1947年 (昭和22年)	4月 学制改革により、 江別町立対雁小学校となる
1951年	11月 新校歌(現行)制定
1972年 (昭和47年)	石狩川築堤改修工事のため 現在地(見晴台17番地1)に校舎移転
1997年	4月 江別市立いずみ野小学校を分離

※明治初期の樺太アイヌ対雁移住については、自治会日より「むかし、むかし四・五」(令和5年2月～3月号)をご覧ください。

参考文献

- ・ 対雁百年史 1971年9月対雁自治会記念誌
- ・ 学校沿革誌 (大正六年六月)
- ・ 学校沿革史 (昭和十八年四月)

<学校の誕生>

ロシアとの条約で日本国民となった樺太アイヌを、屯田兵と共に北海道開拓の担い手にしようとした開拓使は、樺太アイヌの教育を重要視しました。そのことが、居住地とした場所に仕事場(製網所)と同時に教育所を作ったことから視えます。

教育の内容は、邦語(日本語)の理解、算数、農業、養蚕技術の習得と言った実用的なことから始まったようです。

この教育所については、「北海道開拓の村(厚別区)」の旧北海中学校の展示室:北海道教育の沿革に、「旧土人教育所対雁学校」として一番初めに記載されていたことを記憶しています。この名称については、今では差別用語と非難されそうですが、歴史的な事実としてそのまま掲載されたものと思います。

実は、この原稿を書くにあたり、3月初旬に開拓の村を訪れたのですが、旧北海中学校の建物は改装中で入ることができず、施設の学芸員に聞いたところ、掲示されたものは全て撤去され、開拓記念館倉庫に収納され、見ることはできないということでした。改修が終わり、展示が再開されたら、是非見て、確かめたいと思っています。

明治になり、近代国家を目指し教育制度を充実する目的で学制発布が制定されたのは、1872年(明治5年)のことでした。その僅か6年後に、官営で作られ、校長も教員も発令された学校が、開拓期の江別の地に作られたことに、私は大きな意義を感じています。

対雁学校は、アイヌの師弟教育として作られましたが、樺太アイヌが樺太に帰還した後も、開拓者の子ども達が学び、今日まで144年続き、卒業生も5,553名を数えています。

(次号に続く)

“對雁学校②…南極探検”

10区3班 中村 一治

<学校の位置と規模>

對雁地区概要図
(昭和44年)



最初の對雁学校は、民家や作業所（製網所）の一部を借上げ設置されました。その後開拓使の予算に計上され新校舎が作られました。開拓時代に、屯田兵の家屋と比較しても大変立派なものでした。

学校が建てられた場所は、旧豊平川が石狩川に合流する当たりの河川敷でした。当時は、広い敷地（1万1千坪＝3.6ha）で、防風林が校地を囲っていました。

昭和47年に、石狩川の浚渫（しゅんせつ）と築堤工事のために現在地に移転され、その後、對雁の校舎跡は石狩川の河床となりました。

對雁小学校の児童数は、開校以来昭和23年までは二桁で、学級数も1～2学級で、校長以外の配置教員も1～3名でした。

一時、戦後のベビーブームで昭和38年までは児童数も200名近くまで増えましたが、その後は50名前後で、複式の体勢が続きました。統廃合も検討されましたが、現在地に移転することでその危機は逃れました。

私は、学校が移転し、まだ見晴台の団地開発が始まる前に対雁小に転勤になった同僚を送ってきたことがありました。校舎の廻りは木が生い茂り、校門の前に教員住宅が2棟ほど建っていたことを記憶しています。もちろん複式の学校でした。

まさかその後、そこが住宅密集地になり、自分までもが住むことになるとは想像もできませんでした。

見晴台に移転してから10年経って、団地の造成も本格化し、それに合わせて児童数も増え続け、市内でも最も規模の大きい学校となり、今日までその状態は続いています。

<南極探検隊員 山辺安之助>

皆さんは、以前この誌面で紹介した小説『熱源』（著者：川越宗一 第162回直木賞受賞）をお読みにになりましたか。

この小説は、樺太アイヌの對雁での生活やその後の南極探検の顛末を題材に、史実をもとに描かれています。

『熱源』の主人公は、山辺安之助（アイヌ名ヤヨマネクフ）で、実在した對雁学校の卒業生です。

樺太で生まれ10歳の時、對雁に集団で移住し、明治11年の對雁学校開校と同時に入学、4年間の修業（当時は4年制）を経て明治15年に卒業しています。

その後、樺太に戻り活躍し、村の総代にまでなりました。そんな中、白瀬轟（ノブ）隊長の南極探検隊に、隊員として随行することになります。

南極での移動手段に犬橇（いぬぞり）が使われたために、寒さに強い樺太犬の扱いに精通していた山辺が、犬橇担当として採用されたのでした。

残念ながらこの探検隊は南極点に到達できなかったものの、帰国後は日本（アイヌ）の英雄として、その功績を称えられることになりました。

山辺安之助について、学籍や卒業台帳に記載がないか、学校や、郷土資料館に問い合わせましたが、明治時代の記録はないと言うことで断念しました。

参考文献

- ・えべつ百話(下) 藤倉 徹夫 著
- ・熱源 川越 宗一 著 (文藝春秋)
- ・對雁百年史 1971年9月對雁自治会記念誌



対雁小児童が学んだ“対雁の森”

7区5班 齊藤俊彦

私は現在、江別市総務部で市史・行政資料担当専門員をしています。職務柄、市役所の色々な部署から昔の江別のことについて問い合わせを受けることがあります。

昨年の秋、市有財産を所管している課の担当者から『工業団地内の＜対雁の森＞を工業用地として活用する方針になり、議会に報告する必要もあるので、そもそもどういう経緯で市有地になったのか調べてほしい。』と依頼が舞い込みました。

市有財産には、行政財産と普通財産の二種類があり、当時この森（地目は山林）は行政財産中の公共用財産（学校）＝教育財産とされ、用途は対雁小の学校林でした。

私の娘が対雁小に通っていた十数年前、『今日は対雁の森に行ってきたよ。』と話していたのを思い出しました。私が『それってどこにあるの？』と尋ねると、『学校の横の大きな道路を北の方に行き、川を越えてから左に曲がって、ずっと奥に行ったところ。』とのこと。環境学習の一環で以前から行われているようだったのですが、当時は深く詮索することはありませんでした。

それが、まさか十数年後に自分が質問をされる側になろうとは、本当に世の中の巡り合わせというのは不思議なものです。



《対雁の森》位置図

国土地理院空中写真 CH020201-C3-18（2020年）に加筆

さて、本題の「対雁の森」ですが、元々は対雁の篤農家で大地主の松川七蔵さんという方が昭和15年の皇紀2,600年を記念して



松川七蔵

何か公益に役立つことをしようと思い立ち、同17年に角山73番地に所有していた2町歩の山林を対雁小学校の学校林として当時の江別町に寄付したのが由緒となっています。

学校林というのは、そこから産出される薪炭（しんたん）を売却して学校の校舎の維持費や備品の購入費に充てることを目的とした林で、これが田の場合には学田といえます。

対雁小学校の沿革誌には、過去に何度も植林を行い、成長した木を売却して学校備品購入などに充てた記録がみえます。

こうした役割がいつから変わったか不詳ですが、近年の対雁小では環境学習の一環として5年生の児童全員が「総合的な学習の時間」を利用して学校から約2km離れた森までバスで行き、樹種を調べたり樹高を計測したりして実地に学んでいます。

ただ、対雁の森は上記の市の方針に沿って議会に報告の上、今年3月末日で学校林を解除し教育財産から普通財産に転換したため、対雁小では今年度以降は見晴台公園の林を代替の学校林に充てて環境学習に利用していくそうです。



対雁の森（4.28 筆者撮影）

*松川七蔵の肖像出典：『江別市大観』（1955年）

見晴台自治会ホームページで、図と写真を拡大カラー版でご覧いただけます。



五丁目にあった七丁目ストアー

7区5班 齊藤 俊彦

私たち見晴台住民の“台所”として五丁目通り沿線に三つもスーパーマーケットがあるのは、大変ありがたいことです。

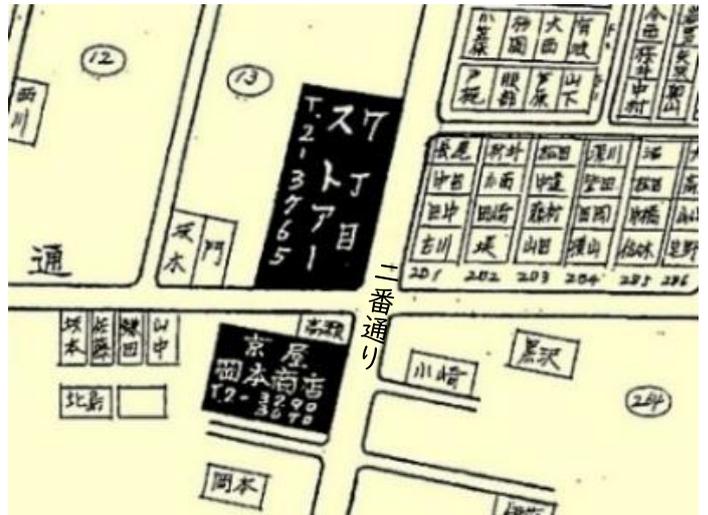
うちビッグハウスは、平成6（1994）年に道内地場スーパー最大手の（株）ラルズが始めた食品中心のディスカウント業態店舗。

4月の札幌・太平店に続き、7月に2号店としてオープンしたのが元江別店です。元々は昭和57年に（株）七丁目ストアーが五丁目通り沿いに「七丁目ストアー元江別店」として出店しましたが、平成5年11月に倒産したため（株）ラルズが買収し、内外装に最小限の衣替えをして再開したのでした。

それにしても、五丁目に七丁目ストアーとは、何とも紛らわしい話です。

七丁目ストアーは、当別町で鶏卵の選別場を経営していた実業家の野間元（ハジメ）氏が江別に移住し、現在ピザハットや菊田食品のある二番通り七丁目角で昭和41年7月に創業。46年3月に有限会社、55年6月に株式会社となっています。出店当時向かいに「京屋岡本商店」という食料雑貨・たばこ・燃料販売の店がありましたが、食料雑貨販売のほうは太刀打ちできないと早々に見切りをつけ、燃料販売店専業に転換を図りました。七丁目ストアーはその後地元の中堅スーパーとして繁盛しますが、51年に札幌市民生協江別店、野幌店が相次いで開業し、翌52年7月には本州大手スーパーのイトーヨーカドーやニチイの進出話が浮上し、野間氏は強い危機感を抱きます。そこでまだスーパーのなかった当別に活路を求め、53年に当別駅前に支店を出すことを計画。すると、これを察知した町役場がスーパー進出に行政指導できる条例をいわば“泥縄制定”する騒ぎになりました。唯、従前は日曜・休日に店を閉めていた商店街が対抗策として日曜営業や休日限定で一割引を行うなど、結果的に顧客サービス改善を引き出す効果も生みみました。

さらに野間氏は57年に元江別店、62年



昭和46年版戸別住宅案内図
(江別市総務部市史・行政資料担当 所蔵)



地図をクリックすると拡大表示します

に二番通り十丁目付近に「イーグルストアー」を相次いで出店する事業拡大戦略に打って出ました。世の中が“バブル景気”に向かう中で、銀行もどんどん融資をしてくれたのですが、バブルがはじけ担保価値が下がると銀行は融資の“貸し剥がし”に走り、資金繰りに行き詰った七丁目ストアーは、遂に倒産の憂き目を見るに至りました。

当別店とイーグルストアーも（株）ラルズが買収し、当別店は現在ラルズマート当別駅前店として営業中。イーグルストアーは平成8年に旭川ガス（株）に転売されて江別支社の事務所となり、令和3年に隣に新社屋が落成後は解体され駐車場に変わりました。

尚、野間氏は登別市に転出し、令和5年秋、94歳で亡くられています。合掌

江別住民第1号は立花由松(「奥山文書」より)

12区 龍本 英世

毎年発行している「江別市統計表」に江別の年表が記載されています。その江別年表の最初に記載されている出来事が、立花由松の江別住民第1号の記載です。

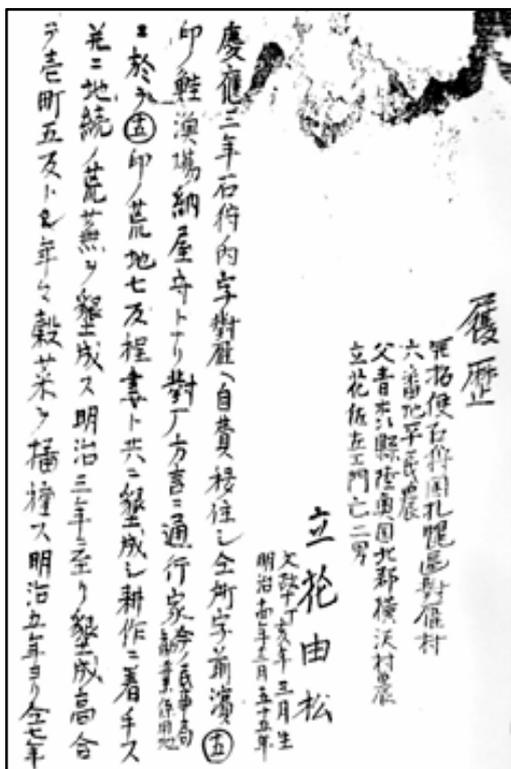
年号	西暦	主なできごと
慶應3年	1867	阿部屋(あぶや)の通行屋に立花由松が定住。

この立花由松が対雁に定住生活を始めたことがわかったのは、1981(昭和56)年に「奥山文書」が見つかったことによります。

「奥山文書」とは、江別市弥生町在住の奥山利子さん宅の古いふすま3枚の中から見つかったものです。このふすまは、奥山さんの両親が古物商から買い取って居間に使用していたものですが、新しい引き戸に取り換えた後雨ざらしにされていて、ふすまの表面がはがれ、中から1893(明治26)年2月発行の「北海道毎日新聞(北海道新聞の前身)」が出てきました。「これは珍しいものだ」と家人が新聞をはぎ取ってみると、ふすまの下張りになっていた古文書類が続々と出てきたことから、「奥山文書」と命名されたのです。



昭和56年4月19日(読売新聞)



その「奥山文書」には、1867(慶応3)年に入植し江別最初の住人といわれる立花由松さんの履歴や1871(明治4)年に仙台藩涌谷村から対雁に渡り、クワを入れた人たち(涌谷移民)、1877(明治10)年に移民教育所(現対雁小学校)を開設した記録

文書、対雁村が月別に記録した気象表、対雁の戸長が開拓使に報告していた小豆、大豆、大麦の収穫量、1882(明治15)年の水産博覧会(函館)に樺太アイヌの人たちが出品した塩サケや開き干しサケなどの出品目録などがあり、江別の開拓期を知るうえで貴重な文書がたくさんありました。

その1年後に、同じくふすまの下張りとなっていた古文書が出てきて、ほとんどが1882(明治15)年から1887(明治20)年のもので、対雁戸長役場が毎日記録した気象表

や空知郡幌向太渡船場の記録など、当時の行政や生活を記した貴重な資料ばかりです。江別の貴重な資料は、このように思わぬところから発見されました。びっくりですね。

補足情報

文中の資料は、右記 URL か QR コードで閲覧できます。ぜひご覧ください。

江別の年表
9 ページの PDF

<https://x.gd/btUTJ>



奥山文書
174 点の一覧・概要

<https://x.gd/Yn00e>

